

日本の建設技術は世界的に高い評価を受けている。しかし、もともと地場産業として国内事業を主軸に発展してきた業界なため、英語力の水準は全産業の中で最下位という。海外ビジネスにチャンスがあっても、言葉の壁が立ちほだかる。この課題を解決に導くのが、Mimmy（港区）が運営する「オフィス留学」だ。「1年で海外事業ができる英語レベルまで到達させる」をテーマに建設業に特化した英語学習カリキュラムを提供し業界のグローバル化を支援している。

= Mimmy =



「建設業の海外事業を支える存在として尽力したい」と話す関根社長

「英語を学べる場は多いが、建設業に特化した学習場所は存在しなかった」と話す関根謙太社長。自身が以前勤務していた大手ハウスメーカーで海外事業に携わった際、「ここまで自分のパフォーマンスを発揮できないものなのか」と語学

オフィス留学

# 建設業のグローバル化を支援

## ネガティブ要素「語学」取り除く

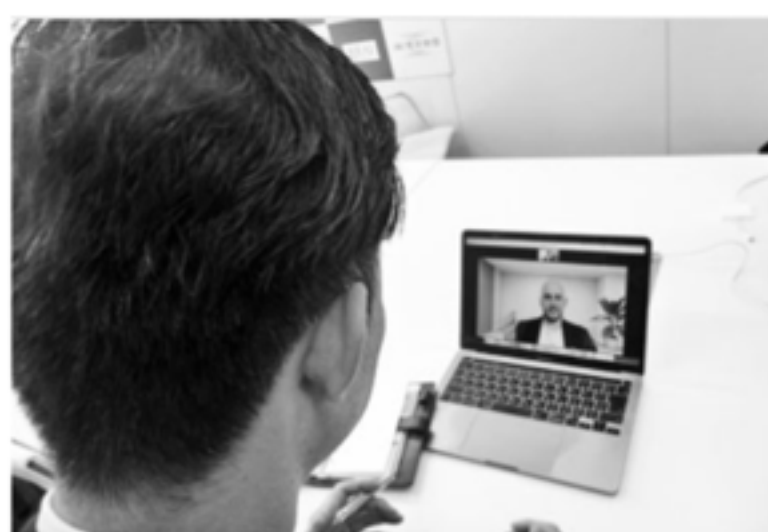
の壁に悩んだという。「日常会話は話せるが、専門的なことになる伝わらない、聞き取れないというのが現実。同じ課題を持った企業、人が多いことに気づき、4年前にオフィス留学の運営を開始した」

オフィス留学では、建設業に特化した英語学習プログラムで業務に直結する英語スキルを習得できるのが特徴。専門用語や実務に即したコミュニケーションを重視し、通常の語学学校では学べない実践的な内容が組み込まれている。受講生は、週1回のパーソナルレ

ッスンと週3回のグループレッスンを実施。さらに1日2時間のホームワークが課されるため就業時間外は英語一色な生活を送る。ハードな内容となるが、専属講師による完全伴走型サポートで受講生の90%が研修を完遂する。「スーパージェ

ネコン出身のアドバイザーが監修し、実際の海外事業の場面をもとに教材を作成するなど、教材の開発にはこだわっている。1年で海外事業を担えるグローバル人材を育成可能な内容だ」と語る。

12月には大手ゼネコンで



専属講師による完全伴走型サポートを実現

も導入が決まっている。サービスの需要が高まる中、関根社長は、「海外事業で一番ネガティブになるのは語学だ。このネガティブな要素を取り除きたい。英語は学べば必ず身に付く。今後の建設業界のグローバル化に貢献していく」と力を込めた。